

## 令和5年(2023年)度 伊那北高等学校 評価表

教育目標		中・長期的目標	
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躍如として学業にいそむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。		1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。	
		重点目標	
		1 「いじめ・体罰」のない安心安全な教育環境を整え、一人一人が輝く学校にする。 2 チームとして「3つの方針」に沿った授業実践と教育課程の進化を目指す。 3 100年の歴史を礎に、地域社会と協働し持続可能な社会・学校づくりを目指す。	

領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	主な評価の材料	成果と課題	改善策・向上策	関係校務分掌
教育活動	進路・学習に関わる指導	2 3	進路意識の醸成	生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができるような機会の設定、情報発信等を行うことができたか。	総合的な探究の時間、学際探究、理数探究基礎、課題研究、生徒会活動、部活動等において、生徒が自ら課題を見つけ活動し、発信する取組みが行えるようにする。 ・外部と連携しながら、体験活動、講演会等の機会を設定し、積極的取組みを促す。 ・体験活動や、外部講師を招いての講演会実施が困難な場合、それに代わるオンラインを利用した機会を設定する。 ・進路に関わる資料や冊子等を、精選した上で配布し、進路意識の醸成を図れるよう活用する。 ・オンラインオープンキャンパスやオンライン大学説明会等の情報についても、精選した上で発信していく。	生徒アンケート	・「総合的な探究の時間」、「課題研究」が通常の時間割の中には4年が経過するが、探究活動における指導が洗練されてきた。生徒アンケートの結果でも、生徒がこれらの活動を好意的に受け止めていることが分かっている。加えて、外部からの評価も高い。 ・生徒会活動については、新型コロナウイルス感染症も落ち着きを見せ、コロナ禍前とほぼ同様な活動を行うことができた。 ・コロナ禍もほぼ終息し、体験活動や外部講師を招いての講演会等の実施に当たっては困難はなかった。一方、世の中が進化してオンラインに置き換わった催し等も増えてきている。 ・進路に関わる資料や冊子等、精選した上で配布し、進路意識の醸成を図れるよう活用することができた。 ・オンラインオープンキャンパスやオンライン大学説明会等の情報についても、精選した上で発信していくことができた。	・校外における生徒による発信の機会を増やすために、地域や他校との連携を深めていきたい。 ・講演会や研修会については、目的に応じて対面とオンラインを使い分けながら実施していきたい。 ・進路に関わる冊子や資料だけでなく、オンラインでのオープンキャンパスや大学説明会等の情報についても積極的に発信していきたい。 ・生徒会行事だけでなく、日々の生徒会活動においても生徒が課題を見つけ、解決策を探究できるよう促していく。	進路指導 生徒会
					2	進路指導計画を作成し、生徒・保護者の納得できる進路指導を教員間で連携しながら行うことができたか。	伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間で共有し、生徒・保護者への丁寧な説明を行う。 ・生徒・保護者との連携を深め、生徒が自己の進路志望を明確にできるようにする。 ・第一志望の進路実現に向けての計画を作り、実現できるようにする。 ・定期考査や外部模試、昨年度の共通テスト等の結果を分析し、課題を共有し、授業や補習の機会を通じて生徒に還元する。	進路指導アンケート(満足度)	・様々な場面において、伊那北高等学校としての進路指導方針について、教員間で共有を図り、生徒・保護者へ説明することができた。 ・授業評価アンケートで、生徒からの自由記述について、建設的な意見が得られるよう工夫を図った。定期考査や外部模試などの結果を分析から、上手くいったこと、上手くいかなかったことについて分析を行ってきた。これらを教科内、教科間で共有したことで、より良い授業を設計することが可能になった。さらに、そのより良い授業方法を教員間や生徒にICTで共有することによって、学習効率が向上した。
		2	授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。 ・教科内連携、教科間連携による授業の効率化が図れたか。	・校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行い、教材や授業の共有化を進める。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにして、改善に活かす。 ・ICTを活用して、①授業内容の改善を図る。②授業の効率化を目指す。③生徒による自学自習の便宜を図れるよう工夫をする。④個人タブレットの有効な利用方法を研究する。 ・教科を超えて「具体⇄抽象」の力をつけるため、互見授業を活発に行い、カリキュラムマネジメントを進める。	授業評価	・5月20日に公開授業を、1月27日の課題研究発表会を行った。参加者数は延べ300名を超えた。また、新聞やTVなどのメディアも活用して積極的に本校の学習の取り組みを校外に伝えた。その結果もあってか、学校評価アンケートの記載から、本校の取り組みに対するご理解が深まって来ていると感じる。 ・他校との連携授業やICTを利用した授業の配信を行うことで、指導方法の共有化が進められた。 ・授業評価アンケートの結果を教員間で共有することで、より良い授業の研究が進んだ。 ・「具体⇄抽象」の力をつけるための取り組みをいくつかの授業で実践した。今後はさらに多くの授業で行うことが課題である。	・指導方法の共有を進めるために、研究会を開催する。研究会では、各人の実践を紹介することで、より良い授業を行うための方法を模索する。 ・他校や他県の授業を見学することで、様々な情報を収集する。	学習指導
		2	家庭学習指導	授業を中心とした家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・教科を超えて課題の量や質を検討することで、3年間を見据えた体系的な家庭学習を可能にする。 ・予習復習や課題への取組みについて点検し、個人面談などをとおして適切な指導を行う。 ・「学習計画」を作成させることで、計画的な学習を促し、家庭学習の充実を図る。	学習時間調査	・学年内、係内での課題量の一覧表を作成して、現状を認識することができた。昨年度、一昨年度に引き続き「適切な課題量」の研究が進んでいる。 ・担任による個人面談を行うことで、家庭学習の指導を行うことができた。 ・首都圏や大都市の有名進学校の視察を行い、学習計画の有効な立案方法を研究した。	・共有した情報をもとに、個別最適な課題の在り方を検討する。 ・学習計画を整理させるために、進路指導係と協同して3年間を見通した指導計画を立てる。	学習指導
		2	読書指導	・読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的・自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」を実施する。 ・読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供する。 ・授業・探究学習・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。また、探究の手法について関係部署で研究を深める。	貸出図書数・利用回数	・本や読書についての生徒からの情報発信や生徒同士の交流の場を設けることができた。 ・探究学習と図書館の連携を深く持つことができた。文献の調査や探究を行う際の図書館の有用性と重要性について、生徒に伝えることができた。	・読書の重要性を生徒に伝えたい。そのために、教科教育と探究の両面で図書館と協働する。	学習指導 図書指導
	学校生活に関わる指導	1	生徒支援相談体制・特別実教育	関係職員・スクールカウンセラー・SSW・子ども相談室等の外部機関・家庭が連絡を密にとり、生徒それぞれの状況に応じた適切な対応をとることができたか。	・小規模の会議から職員会まで、臨機応変に情報交換会を設定し、生徒の状況について情報共有をする。 ・スクールカウンセラーや外部機関等との連携を図る。 ・職員研修会を通じて、職員の知識・理解をさらに深める。	職員研修会関係の意見書	・特別支援会議、教科担当者会、学年会、職員会など、情報交換をする機会を設定し、生徒の状況を共有することに努めた。 ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を積極的に図った。 ・今年度も職員研修会を年度当初の放課後に設定した。多くの職員が参加し、不登校に対する外部機関と連携した支援について理解を深めることができた。	・継続してこまめな情報共有を図り、生徒支援につなげる。 ・次年度内に活動方針を検討・決定し、校内の支援体制を強化する。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、医療機関等外部の専門機関とも積極的に連携をとる。	特別生徒支援委員会
				1	生徒の健康管理	学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	・感染症対策も含め、自他の健康について適切に管理し改善していくようにする。 ・学校行事や生徒会行事を運営する際、感染症や熱中症などの対策と安全面でのアセスメントを徹底し、事前チェックと生徒の指導及び当日の危機対応を行う。 ・交通安全および盗難予防指導の実施について、生徒の自覚を促す指導と保護者への理解と協力を図りながら実施する。	生徒アンケート	・コロナウイルスが5類に移行し、生活様式が変わる中、健康診断の結果や社会の状況を見ながら、放送や保健だより等で安全を呼びかけることができた。 ・文化祭等の行事において、感染症・熱中症対策等について各部署担当顧問及び生徒会役員と事前のシミュレーションを入念に行い、チェック体制を構築した。当日対策も含めて安全面からも健康面からも危機対応ができたこと考える。 ・今年度より、自転車ヘルメットの着用が努力義務となった。7月の調査では約7割の着用が確認されたが、学年が上がるごとに着用が低下している事実があった。今後も命を守るものとして生徒だけではなく家庭にも呼びかける必要がある。
		1	校舎内外の環境美化	「エコマネジメント長野」に基づきゴミの減量や校舎内外の美化などを推進することができたか。	・ごみの分別、減量に努める。 ・日常の清掃の徹底と点検を行う。 ・部室周辺及びトイレ清掃を徹底する。 ・教科ごとに実施している環境教育の体系化を努める。 ・電気・水道使用量の節減に努める。	「エコマネジメント長野」の把握	・日常の清掃活動状況は概ね良好であるが、トイレや目の届きにくい箇所については徹底できなかった。モップのクリーニングを実施した。 ・生徒会と協力して、年に3回(部室移動含)部室清掃を実施した。今後も部室を含め校内の美化に努めたい。 ・ゴミの持ち帰りについては概ね徹底されてきている。部室での私物持ち帰り、分別の徹底を周知していきたい。日頃からの環境整備活動を通して美化への意識向上させる方策を考えたい。 ・電気使用量は例年並みであったが、電気料金の高騰もあり、引き続き節電に努める。	・今年度は校内美化活動として、ホームルーム教室の木床ワックス掛けを計画・実施した。次年度は特別教室の木床ワックス掛けを計画したい。また、今年度は校外美化活動を一回実施することができたが、次年度は文化祭に加え、学検前にも実施できるよう計画したい。校外清掃を登下校時など日常的な美化意識と地域共生意識の向上につなげていきたい。	清掃・学校衛生環境推進委員会・エコ
	学校運営	地域との連携	3	中学生及び保護者、地域の方々に本校の教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	・5月の土曜授業公開と2月の課題研究発表会を一般に公開する。 ・中学生体験入学を実施する。 ・中学校訪問の実施、視察の受け入れ、中学生向け進路講話への対応を積極的に行う。 ・HPを有効活用し、内容の随時更新を心がけ、学校のさまざまな情報を発信する。また生徒・保護者には、必要な情報を一斉メールにより配信する。	ア 来 校 者 への ヘ ト の	・5月の土曜授業は、本校生徒の保護者、中学生とその保護者等に公開し、412名の参加があった。また、2月の総合的な探究の時間発表会と課題研究発表会にも、多くの保護者や一般の方の参加があり、本校の教育活動について理解を深めてもらう良い機会となった。 ・体験入学は415名の参加があった。昨年より学校説明やクラブ見学の時間を長くとり、時間的に余裕を持って実施できた。また、体験授業も好評であった。 ・HPは、原稿作成から掲載までの流れを再構築し、様々な情報を迅速にアップロードすることができた。	・土曜授業公開は今年度より年1回のみとなったが、より多くの方に来ていただけるよう広報する。 ・中学生体験入学は、中学校側の意見も聞いて日程を決め、滞りなく実施できるよう計画する。 ・HPは、様々な情報の即時発信を続け、より内容を充実させる。	教務
				2 3	学校ビジョンの検討	・高校再編等も踏まえ、これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョン、教育課程について検討することができたか。 ・大学入学共通テストや学びの基礎診断に対して、対応できる教育課程の検討がなされたか。	将来像検討研修会での意見集約等	・将来構想検討研修会において、教育目標、3つの方針等についての共通理解を図った上で、スクールミッションの策定を行った。それに関連して学びのあり方についての研修や、新校に向けての意見交流など、充実した研修を実施することができた。 ・新カリキュラムを運用することで、カリキュラムの理解が進んだ。その結果をもとにカリキュラムのマイナーチェンジを行った。新学習指導要領をもとにした大学入試の対応も進んでいる。 ・弥生ヶ丘高校とのカリキュラム統合に向けた会議を複数回行ったことで、今後の方針が確認された。今後両校でさらに検討を進めるよである。	・将来構想検討研修会をより充実させ、本校及び新校に関して職員間の共通理解をさらに図っていく。 ・来年度に迫った新学習指導要領第一期の大学入試に向けて情報の共有を進めたい。 ・新校への移行をスムーズに行えるように、教育課程のブラッシュアップを図っていく。
1 2 3		学校評価	・学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	・PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。 ・学校評議員会、学校関係者評価などを通じて頂いた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックし、その改善・実現に向け全職員で検討していく。	学校関係者へのアンケート	・生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。どの項目においても概ね高評価をいただいた。 ・学校評議員の方々から、様々なご意見、提言をお聞きすることができた。 ・昨年度からFormsによる回答をお願いしているが、生徒回収率68.6%、保護者回収率48.7%と、回答回収率の向上が課題である。(昨年度生徒回収率61.1%、保護者回収率58.8%)	・生徒や保護者、学校評議員からいただいた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックしていくことにより、本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。	学校評価委員会	